



バンコク便り



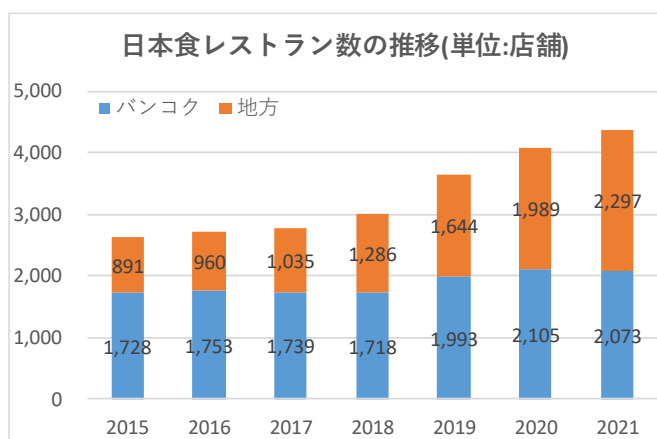
1. はじめに

12月24日に発表されたタイの新型コロナウイルス新規感染者数は2,671人（バンコク411人）となりました。段階的に街中の規制が緩和される中で、20日以降の新規感染者数は3,000人を下回って推移するなど減少傾向が続いていましたが、20日にオミクロン株の市中感染が初確認されたことなどから、11月より開始された外国人観光客の隔離免除入国制度の新規受付が一時的に停止されました。ようやく観光や年末商戦などが盛り上がり始めていましたが、国内でも再び行動制限となる可能性があるため、今年も油断できない年末年始となりそうです。

2. 当地ビジネス情報（2021年日本食レストランの動向）

ジェトロバンコクより2021年の日本食レストラン調査が発表され、タイの日本食レストラン数は前年比6.7%増加の4,370店舗（新規出店889店舗、閉店・休業等613店舗）となりました。バンコク以外の地方では2,297店舗（前年比15.5%）となり2007年の調査開始以降初めて地方での店舗数がバンコクを上回りました。日本人駐在員の少ない地方での増加要因としては、日本食文化の浸透やショッピングモールの増加などが挙げられています。一方で飲食店全体では、9月からの店内飲食解禁より売上が回復傾向にありますが完全回復には至っておらず、休業が231店舗（前年70店舗）と大幅に増加するなど、昨年以上に新型コロナウイルスの影響が大きくなっています。

業種別で一番増加したのは寿司（前年比15.2%増）となり、今年3月末にタイ初出店した回転ずしチェーン店スシローは12月1日に5店舗目を出店し、今後も年5~6店のペースで出店を計画しているようです。減少幅が大きかったのはそば・うどんでしたが、一杯約300バーツ（約1,000円）の本格的なうどんを提供する店は多くのタイ人客で賑わい、SNSでも話題になっていて、需要は十分あるように感じます。海外渡航が制限される中、より日本を感じられる本物志向のレストランやタイの食文化に合わせアレンジされた日本食が増えるなどの見方もあり、今後も日本食レストランは増えていくと予想されています。



出所:JETRO バンコク

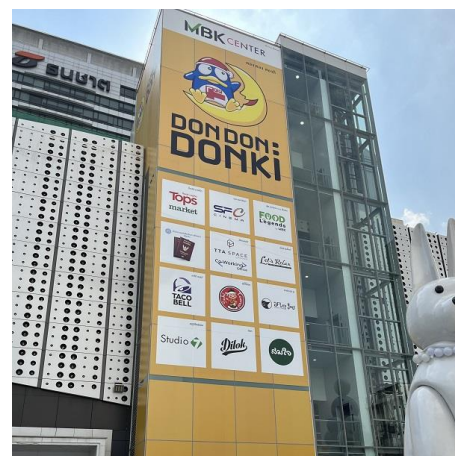
3. 現地トピックス（ドン・キホーテ 4号店オープン！）

12月21日、タイでは4店舗目となるドンキ（タイランド）「DON DON DONKI MBKセンター」がオープンしました。場所は、バンコク中心部、BTSナショナルスタジアム駅直結で、今年1月まで東急百貨店が営業していたところです。

こちらも1~3号店同様に多くの買い物客で賑わっており、タイでの認知度は非常に高くなっています。日本産和牛やフルーツ盛り合わせ、調味料、雑貨など種類が豊富で日本人から見ても、非常に充実した品揃えだと感じます。店頭ではおでんや日本産いちごを使用した大福なども販売しており、多くのタイ人の目を引いていました。

ドン・キホーテはタイでの出店数を2024年6月を目処に10店舗まで拡大する方針の他、シンガポールを中心にマレーシア、香港、台湾などでも店舗数を増やす計画があり、日本クオリティの商品の販売や日本文化の魅力発進などにも力を入れております。

同社は昨年10月、日本の農畜産物の輸出拡大に向けた会員制組織を発足させており、今後もその動向に注目が集まります。



ドン・キホーテ 4号店外観

【本件に関する連絡先】 営業推進部 地方創生室 石井・軽部・高橋 023-626-9050

【作成協力】 カシコン銀行日系金融法人チーム（在バンコク）